

令和元年度第2回山口県総合教育会議 議事録

1 日 時 令和2年2月20日(木) 16:00~17:00

2 会 場 山口県庁4階 共用第1会議室

3 開 会 (事務局)

4 知事挨拶

教育委員の皆様方には、平素から本県の教育行政の推進に多大な御尽力をいただいていることに対し、この場をお借りして厚くお礼申し上げます。また、本日は、大変お忙しい中お集まりをいただき、誠にありがとうございます。

11月に開催した前回の会議において、令和2年度の「重点取組方針」について御協議をいただき、委員の皆様から貴重な御意見をいただきました。

一昨日、来年度の当初予算(案)について発表したところであるが、皆様方からいただいた御意見を踏まえ、重点取組方針に基づき、施策の充実や新たな取組の検討を重ね、関連予算を取りまとめたところである。

AIやIoT、5Gなどの技術革新が進み、Society5.0といわれる超スマート社会が到来する中、私は、自ら未来を切り拓いていく若者を育成することは大変重要であると考えている。

このため来年度は、これからの時代を切り拓いていく子どもたちに求められる情報活用能力等を育成するため、ICT環境の整備を進めるとともに、ICTを活用した新たな学びを推進するための体制整備等を進めることとしている。

また、4月には全国で初めて県内すべての公立学校にコミュニティ・スクールが導入されることから、このコミュニティ・スクールの仕組みを活用し、中学校と高等学校との連携による地域課題の解決に向けた活動など、県独自の取組を推進することとしている。

詳細は後ほど事務局から説明させるので、委員の皆様におかれては、幅広い見地から忌憚のない御意見・御提案を賜りますようお願いして、私の挨拶とさせていただきます。

5 議事概要 (議事進行: 知事)

※委員発言: ● 事務局説明等: ○

(1) 令和2年度の重点的な取組について

○事務局から参考資料に沿って説明

●中田委員

若者の県内定着の促進についてお話させていただく。

私が勤務している山口大学は、県内出身者が多い学部で30%ぐらい、あとは他県出身者で、他県出身者はほとんど県外に、自分の出身地であるところへ公務員とかそういう形で就職される。

そのため学部によっては30%ぐらいいる県内出身者の学生に県内就職して

もらいたいということで、いろいろな試みをするが思うようにいかない。

やはり大きな会社、一部、二部上場企業に就職したいと思う学生が多く、これはもう何十年も前からそれほど大きな変化はないが、一番の理由は金銭的な面である。

大きな会社には早期退職した場合の年金の積み増しや、再就職先の斡旋などがあり、学生たちはそういう条件のいいところに行きたいと考える。

もう一つはお金とは関係なく、就職した先で自分の仕事上の目標や生きる目的などを若い頃に模索する際、参考になるような人、先輩、同僚、これが周りにいるかどうかが大変で、大きな会社あるいは東京や大阪には、そういう人たちが周りにいっぱいいる。

会社によっては、自分の目標と会社の成長の目標が一致するようなところをその人が努力すると評価してくれるところもあるが、山口県だけではないが、どうしても田舎ではそこまでの支援がなされないところがある。

金銭以外の理由については、企業単独での対応は難しいので、異なる業種でもいいので企業が連携して若い人たちを中心に会合を持つとか、何かプロジェクトを作って一緒にやっていくとか、そのような試みをしたら、金銭以外の若い人たちが希望することに少し叶えられるのではないかと思う。

●村岡知事

ありがとうございます。

就職のときにどうしても都市の方にいろんな条件、再就職や引退した後のことも含めて惹かれるものがあるとは思う。山口県単独でどうしようもないこともあるが、いろいろな魅力を伝えていくとか、あるいはもっと企業に努力してもらって親近感を持ってもらうとか、いろいろなアプローチで県内の企業の魅力を伝えていかなければいけないと思う。

●宮部委員

冒頭に知事から御発言があったように、Society5.0に向けて積極的に予算を組んでいただけて本当にありがたく思う。

I C T機器や通信環境は日々進化していくので、今後もその都度大きな予算が必要になると思うが、まずはスタートに当たり大変な予算を組んでいただきありがたく思う。

少子化により子どもたちの数も減っており、学校の統廃合も進んでいるが、I C Tを使えば少人数でもたくさん子どもたちが同じ環境で授業が受けられる、学べるということが今の技術ではできると聞いている。人口減少が進んでいる山口県では大変有効だと思うので、I C T環境の整備について今後ともよろしく願います。

1番最後の項目に、地震や災害に備えた安心安全な学校づくりが掲げられて

いるが、先日神奈川県逗子市で法面崩壊により通学中の子どもがなくなったという事故が起きた。

現実に道路整備は進んでいるものの、通学路の整備は遅れている。車道の整備はもちろんであるが、やはり子どもたちの通学路もよく調査しながら、100%の安全の確保は非常に難しいと思うが、いろいろな知恵を働かせながら1日も早く大きなリスクを減らすということで、知事部局の道路管理の部署や市道国道も含め連携しながら対応してもらいたい。

高齢者の暴走など、歩道に車が進入しやすい道路でも最近多くの事故が起きている。車の性能は良くなっているが事故がゼロになるわけではないので、施設面の整備も含め、特に通学路を中心に進めていただきたいと思います。

知事にはいろいろな面で積極的にやっていただき本当に感謝している。

●村岡知事

ありがとうございます。

通学路の安心安全の確保はとても重要なことなので、よく目配りをしてやっていかなければいけない。

I C T環境の整備、機器や通信環境の整備については、今は5 Gという新しい通信規格もできており、高速大容量の通信が可能になるものが社会全体にこれから整っていく。

少人数でも端末や大型提示装置を使って、これまでできなかったような疑似教育ができると思うので、そのためには御指摘の通りインフラの整備や通信環境の整備をしっかり進めていきたい。

●佐野委員

令和2年度の重点的な取組について、国のG I G Aスクール構想が示され、これまでになくI C T関連の予算が措置されたことは大変ありがたく思う。

I C Tは現在の社会において利活用が不可避な技術となっており、将来においてさらに生活に密接な技術になると感じている。こうした予算を無駄にしないよう学校で活用していただきたい。

まず、「新たな学びを実現する教育I C T推進事業」では、今後のI C T活用の土台となる環境整備になるので、できるだけ大容量のキャパシティーや変化に対応できる汎用的な拡張性を持った整備をしてもらいたい。

予算的な制約があると思うが、日進月歩のI C T技術を考えると、今は十分であろうと感じられる環境があつという間に使いにくい環境になり得るので、少しオーバースペックとを感じるぐらいのものが必要になると思う。

将来のメンテナンスを考えると、汎用的な拡張性が確保されていることは大切であり、また維持管理ができる職員がいると長い期間においてその機能を十分に発揮するように感じている。

次に、「ICTを活用した新たな学び推進事業」では、ハードウェアも重要であるが、それを動かすソフトウェア、利活用する人がいないと宝の持ち腐れになってしまうので、この部分はかなり重要であると考えている。

ICTの活用や指導する方法についてしっかり研究していただき、ハードを使えるソフト部分を、人的にも物的にも充実させていただきたい。

新しい設備だと利用が慎重になるのではないかなと思うが、ICT関連機器は適切に使用すれば簡単に消耗するものではないので、子どもたちにはしっかり使ってもらいたい。

「児童生徒の英語力向上事業」があるが、ICT技術を利用すれば英語の授業もかなり効果があるのではないかと考えている。先日萩高校で次世代型教育パイオニア校としての英語授業の視察に参加したが、高校生が英語で、SDGsという難しい課題についてプレゼンテーションを英語で行っていた。質問を聞きなおしたり、聞き取りに対して配慮の言葉をかけるグループ、発音や話し方がとても綺麗な生徒やウィットが効いた生徒もおり、実用的な英語を身につけることができる授業が公立高校で行われている、英語教育が変化してきていると感じた。

高校での視察ではあるが、義務教育課程からICT技術を活用して、さらに効果的な使える英語を多くの子どもたちに習得してもらいたい。

「育ちや学びをつなぐコミュニティ・スクール推進事業」や、「やまぐちで学ぶ！高校教育魅力向上事業」などもICT技術を使えばいろいろ活用ができるのではないかなと期待している。

コンピュータやタブレットをゲームやSNSしか利用していない子どもも多いと思うが、本格的なソフト環境が整うまでは、試験運用でもいいので学校で積極的に使ってもらい、子どもたちが自分の能力を拡張する道具として利用する方法を身につけてもらう機会になっていただければと思う。

次に、いじめ不登校の対策については、人が人を育てるという意味でも相談を受ける先生やスクールカウンセラーが生徒一人ひとりにどこまで関わられるか、適切な対応ができるかということが大切であると感じている。

学校における働き方改革では、時間外勤務が注目されているが、統合型校務支援システムや学校業務支援員などを活用して、教員の皆さんが子どもたちに向かい合う時間をたくさん作っていただきたいと思う。教える内容が増えるなど大変難しい部分もあると思うが、授業改善により、伝えたい内容がうまく伝わる、子どもたちの心に触れる授業時間にしていきたいと感じている。

子どもが安心して成長できる環境をつくることが大変重要であり、教育環境を充実させる各事業が相反するものではなく、めざす方向性を合わせて進めていきたいと思う。

最後に、村岡知事におかれては、教育に対しての配慮を非常に感じている。

これからの日本社会として教育が重要だと感じる人も増えており、少なくと

も子どもは何もしなくても育って、教育に社会が手間やお金をかける必要はないという考えの人は少なくなってきたらと思う。子どもたちが安心して成長できる山口県教育の環境整備にしっかりつながっていただきたいと思う。

●村岡知事

ありがとうございました。

I C Tについて、子どもたちの情報活用能力や情報処理能力を育てていくことがこれからますます必要になっていくので、そのために学校にI C T機器を導入し、有効に活用していかなければならない。

また1人1台端末により、子どもたちの状況に応じた個別最適化された学習が可能になる面もあるので、今後充実した教育が提供できると思っている。

また、I C T機器を長く使えるように、仕様などはよく考えて調達等しなければいけないし、活用するには、ハードだけではなくソフト、人的な部分もしっかりとした体制や教育が重要になるので、それも踏まえ、いい形で成果に結びつくように取り組んでいきたい。

●小崎委員

私からは2点ほどお話をさせていただく。

まず、「育ちや学びをつなぐコミュニティ・スクール推進事業」について、今のコミュニティ・スクールがさらに一歩進んだ形になるのではないかなと思う。

現在、小学校と中学校の連携はよくできているが、中学校と高校の連携はなかなか難しいところもあるが、これからはコミュニティ・スクールを進めていく上で1番のキーパーソンは中学生ではないかなと思う。中学生にとって高校生は1番近いところにある未来の姿なので、その高校生と一緒に何かすることによってお互い刺激をもらい受け合うことで、そこからすごい力が見出せるのではないかと非常に期待している。

そこに学校運営協議会が加われば、私たち大人も違う力がもらえるようになるので、とてもよい事業だと思う。

ただこの取組を誰がどうやって進めていくのか、例えば私は萩市にいますが、県からどのように萩市に指示があり、萩市でどのように進めて行くのか、萩市でもできるのかということが疑問である。

次に2点目は、今回の重点取組方針の関連事業は子どもたち主体の取組が多くあるので、その取組内容や取り組んでいる子どもたちの姿を皆さんに知ってもらえるように、結果だけを伝えるのではなく、取組の過程も最初の段階から見てもらえるような形で進めてもらえればと思う。子どもたちが輝ける場所をたくさん作っていただきたい。

地元の話になるが、道の駅萩しーまーとの駅長さんが月に1回ぐらい萩の浜新聞というしーまーとの新聞を出されており、一昨日配られた新聞では、萩高

校の生徒の皆さんの活動が載っていた。

萩高校普通科のグローバル・ラーニングの授業の一環で、4、5人のグループに分かれて、課題解決に向けた取組を行っているが、その1つのグループがしーまーとを課題に選んで、活性化に向けた取組が特集されていた。

その活動の様子がとても素晴らしく、それを見ることで地域の人たちが萩高の生徒は今こういうことをしているのだとか、高校生は今こういうことに取り組んでいるのだなっていうのがすごくよくわかると思う。またそれを知ることによって生徒たちも自信に繋がって、故郷に対する愛も芽生えるのではないかと考えている。

そういう子どもたちの頑張りを、私たち大人が見逃すことなく応援していただけるようなことも私達、大人の取組でもあるので、そういう取組の重要さは忘れたいと思っている。

●村岡知事

ありがとうございました。

最初のコミュニティ・スクールのお話は、今回全ての公立学校にコミュニティ・スクールが揃うので、新規事業の中で中高の連携というこれまで弱かった部分をしっかりやっていきたいと考えている。

子どもたちの活動を皆さんに知ってもらおうという話で、地域の方も応援しようという気持ちになったり、子どもたちもそれによって自信がつくなど、スポットライトが当たるとするのはとても重要なことだと思うので、工夫しながら、皆さんに取組を知ってもらおうような努力をしていきたいと思う。

● 原委員

まずICTについて、海外との遠隔授業ということで、ネイティブとディスカッションをする、あるいは大学の授業をeラーニングで受けるということは非常によい取組だと思うので、ぜひ推進していただきたい。

また国内の高校同士をオンラインで繋いで、特定の地域の課題について話し合うことは、高校生が様々な刺激を受け非常によいと思うので、限られた時間の中でカリキュラムを組むのも難しいとは思いますが、取り組んでいただきたい。

若者の県内定着について、様々な施策を実施されていて非常に難しい問題だと思うが、このことは企業の採用にも似ており、山口県の魅力をどのようにアピールするのが重要になると考えている。そういう意味では、民間の採用の手法やコンサルタントなり、そういうことを取り入れることも検討されたいのではないかと考えている。

中田委員さんの話とも重複するが、若者の県内定着に向けて、若い人が山口県での仕事や子育て、生活などが具体的にイメージできるとわかりやすくなると思うので、動画や具体的なモデルなどを実際に見てイメージしてもらうこと

が重要ではないかと考えている。

実際に県内に就職した若者から話を聞いて、そこから山口県の魅力を掘り起こすとか、分析を深めていただければと思う。

県外に出て行った人についても関係を繋いでおくための情報発信やUターンの支援などもしていただき、非常に難しい問題だと思うが引き続き対策をお願いしたい。

●村岡知事

ありがとうございました。

I C Tの関係はしっかり活用して、教育内容の充実に繋げていきたいと思う。

県内定着の関係では、仕事、給与面だけではなく、山口県そのものの魅力や、山口県で暮らすことでどのように豊かになるのかということをもっと伝えていかなければいけないし、県内で実際に働いている若い人たちをロールモデルとして、具体的に見せていくことでイメージしやすくなるということは大変重要だと思う。

その方法について、若い人たちがどういう部分に刺さるのが重要だと思うので、今のお話も踏まえてよく研究しながら、実効性あるものにしていきたい。

●浅原教育長

まず始めに、知事には財政状況が大変厳しい中、本県教育の充実に向けた予算をしっかりと確保していただき心からお礼申し上げます。ありがとうございます。

皆さんの発言と重なるところもあるが、2点ほどお話をさせていただく。

まずI C T関連について、これからの子どもたちの教育にI C Tを基盤とした先端技術の効果的な活用が求められている一方、全国の自治体間で環境整備に大きな差があるということで、国はG I G Aスクール構想の実現に向けて、令和元年補正予算において2,318億円が措置されたところである。

県教委でも、本県ならではの取組によりG I G Aスクール構想を実現させるため、2月補正と当初予算で総額35億円余りの予算を計上させていただき、お礼申し上げます。

I C Tの整備については、先ほど話があったようにネットワークや1人1台端末の整備などもあるが、その活用がとても重要であることから、モデル事業の展開や推進体制の構築を図っていく。来年度やまぐち総合教育支援センター内に新たにやまぐち教育先導研究室を設置して、I C Tを活用した学習プログラムの開発や学校で実践する推進教員の養成等もしっかりと行っていく。

I C Tを教育で活用することで、誰一人取り残すことなく個別最適化された学習に向けて、しっかり取り組んでまいりたい。

次にコミュニティ・スクールについて、知事からもお話があったように4月には全ての公立学校での導入が完了する。

今後はそれぞれの校種の特徴を生かした取組を充実させるとともに、校種間の連携、あるいは地域との協働、そういったものもしっかりと進めていきたいと考えている。

新規事業の「学びや育ちを繋ぐコミュニティ・スクール事業」で、中学校までの地域学校協働活動を高校に繋げていく本県ならではの特色を生かし、地域連携教育のスタイルをしっかりと定着させていきたいと思う。

また先ほど誰がどのように進めていくのかというお話がありましたが、その1つとして、CS活動推進員を新たに全ての県立高校に配置し、校種間連携や地域住民、企業等との調整を行い、連携協働体制の構築を図っていくこととしている。

中学校、高校それぞれのコミュニティ・スクールの活動がしっかりできるようなコミュニティ・スクール活動の推進に活用していきたい。

また、子どもと大人が一緒になって地域の課題解決のための熟議もしっかり行い、そこで出た意見を実際の取組に反映させていきたいと思っている。

未来の山口県を担う子どもたちのために教育環境の充実にしっかり取り組んでいくので、今後とも御支援お願いしたい。ありがとうございます。

●村岡知事

ありがとうございました。

コミュニティ・スクールも是非いい形にさせていただきたいと思う。

ICT関係は機器の整備だけでなく、充実した教育をするための体制の整備も同時に行っていくということなので、しっかりお願いしたいと思う。

国の補正予算で措置されて今回のICT機器の整備をしますが、国の措置がない部分は県単独事業で、厳しい財政状況の中では相当思い切った予算措置をしたと思っているので、ぜひ内容を充実させて、ICTで山口県の教育がとても素晴らしいものになったと皆さんに実感してもらえるよう良いものにしていただきたい。よろしく願います。

●中田委員

重点取組方針の「世界に目を向けた広い視野と身近な問題に目を向ける視野の両方を持つ『グローバルリーダー』や自分とは異なる文化や歴史、価値観等を理解し、協働する力を育む取組を推進」で、主な取組が児童生徒の英語力向上事業であるが、児童生徒の皆さんに英語力を身につけてもらうためには、それを指導する英語の担当教員の力を上げないといけないということで少しだけお話をさせていただく。

先日テレビ番組で、フィリピンの語学学校と連携して広島県の中学校がインターネットで一对一の英語教育を受けている事例が紹介されていた。

山口大学でも留学で語学力をつけるにはフィリピンが非常に良いと言ってい

る。既にもう 10 年ぐらゐの実績があり、毎年何百人もの学生が 1 ヶ月から 3 ヶ月ぐらゐの語学教育を受けている。

フィリピンがよいのは、欧米と比べたら値段が安いことである。欧米は 10 人～20 人の 1 クラスで先生 1 人が付くというのが一般的であるが、フィリピンは、1 対 1 で先生が付き、費用も宿舎費等合わせて 10 万円程度で、非常に手厚い、濃い授業が受けられる。

朝から夕方まで 1 対 1 でやるため、帰ってきた学生は、飛躍的に聞く力、話す力が伸びている。

生徒にはなかなか難しいと思うが、まずは小学校から英語の教科が始まって実際にはやられているところも多いと思うので、そこを中心に英語の先生たちの能力アップのために、少しずつでもいいので、交代で毎年何人かで、1 ヶ月から 3 ヶ月ぐらゐの範囲内で、フィリピンで勉強してその成果を生徒の皆さんに提供してもらいたいと思っている。

●村岡知事

ありがとうございました。

山口大学も多くの学生が海外に行かれており、貴重なお話をいただきありがとうございました。

確かに費用対効果の点も大変重要ですので、それも踏まえて検討を進めていかなければと思う。ありがとうございました。

(4)その他

●村岡知事

本日は、皆様方から貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。

委員の皆様方からいただいた意見をしっかりと踏まえ、関連する施策を推進し、目に見える成果が上がるように取り組んでいきたいと思うので、教育委員会においても、引き続き積極的な取組、効果的な事業実施に努めていただくようよろしくお願い申し上げます。

引き続き、皆様方の御支援、御協力を賜りますようお願い申し上げ、御挨拶とさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。

6 閉会（事務局）

（以 上）